

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2012年1月 第33号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

URL <http://omiya.church.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp

梁 熙 梅(やん・ひめ)

寒中見舞い申し上げます

長い間ご無沙汰してしまい、申し訳ありません。その間、みなさまがみ手に支えられ、導かれ、守られる中過ごしておられることと信じます。

遅くなりましたが、新年のご挨拶を申し上げます。今年も、皆さまの歩みが祝福され、み手の導きの中で平安な一年でありますようにお祈り申し上げます。

昨年のご報告から申し上げなければならないと思います。月一度新しい礼拝をスタートする予定は、中高生たちの聖書の学びをスタートさせることに変わりました。毎月2～4名の中高生たちが集っています。神さまは、若者たちが光の道から外れないで歩めるように導いていくことを当教会の使命として与えて導いておられることを、特に新しい年を迎えている今、実感し、その祈りへと導かれていることを感じ取っています。

また、昨年スタートさせた受洗準備クラスは大きな実りをもたらしました。一緒に学んだ方々が、去るクリスマスの主の降誕祭にて主の洗礼の恵みに与ることができました。神さまが私たちの教会を大いに祝福しておられることを強く感じています。洗礼を受けられた方々のこれからの歩みの上に神さまの祝福が豊かにありますように、みなさまもお祈りに覚えていただければ幸いです。洗礼を受けられた方々の尊い思いを同誌に載せておりますので、どうぞお読みください。

そして、個人的に翻訳にかかっていた「マルタとマリア」(山口里子著)をいったん休み、「虹は私たちの間に」(山口里子著)に変更して翻訳をすることになりました。教会の働きの隙間を活用しての翻訳ですので、スピードの遅いものですが今年は完成させたいと思っています。このような中、日本フェミニスト神学・宣教センターの奉仕員として奉仕させていただくことになりました。教会や教団の仕事だけでも余るほどですが、牧会する上で学ぶことの大切さを感じてのことです。学ぶために奉仕させていただきます。

久しぶりのご挨拶ですので、いくら書いても紙面が足りません。ご無沙汰してしまったことをもう一度お詫びし、シオン通信を通してみなさまのところにみ言葉をお届けさせていただくことを、もう一度約束させていただきます。

毎日寒いですが、みなさまが迎えられる日々が平安であり、慈しみ深い主の愛に溢れる時でありますようにお祈り申し上げます。

聖書 ヨハネによる福音書1章1節～14節

1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。2 この言は、初めに神と共にあった。3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。6 神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。7 彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。8 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。9 その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

暗闇の中の光

イエスさまが私たちのためにお生まれになりました。おめでとうございます。お生まれになったイエスさまは私たちの救い主です。この方が、私たちを死の力から救い出してくださる方です。この方に、悩みの多い歩みを委ねていきましょう。

さて、本日、イエスさまのご降誕を祝う私たちに与えられている福音書はヨハネによる福音書1章の言葉でありま

すが、そこには「光」と「いのち」、そして「暗闇」という象徴的な言葉が記されています。この「光」と「いのち」「暗闇」は、福音書の中でも特別な言葉として使われる言葉です。旧約聖書の創世記の1章のいちばん初めに出てくる言葉であり、神さまの創造の本質的な要素をもっている言葉です。

そして、多くの人たちが、この「光」と「いのち」、そして「暗闇」を題材にして

神さまのことを証しし、詩篇36編を歌う詩人も暗闇を貫き、光といのちを造られた神さまのことを歌っています。「命の泉はあなたにあり／あなたの光に、わたしたちは光を見る。」と。

ヨハネ共同体は、創世記第1章とこの詩篇36編を基盤に置きながら、「光」と「いのち」と「暗闇」を対照させて福音書を展開していると考えられます。そして、イエス・キリストこそが暗闇の中を照らし出す「光」と「いのち」として証しているのです。本日は、このことを念頭におきながら、クリスマスのメッセージを聞いて行きたいと思います。

みなさんは「クリスマス」と聞くと、すぐ何を思い出しますか？

年代によっても違うと思います。小さいときには何と言ってもサンタクロスを楽しみに待つことでしょう。サンタクロス＝プレゼントですから。もう少し大きくなって青年になりますと、カップルでキャンドルの雰囲気を楽しみながらデートをする時としてクリスマスは用いられます。そして結婚して子育てをしている人には？会社のことで忙しくしている人には？年老いている方にとってはどんなことを思い出せるのでしょうか？

私にとってクリスマスは、昨年まではずっと「忙しい！」というイメージでした。クリスマスと聞くだけで、あ！忙し

い時期がやってくる！という悲しい思いになりました。しかし、今年から余裕を持つようにしました。あえて、意識してそうしたのです。

火曜日に行われている受洗準備クラスで、今年初めて(日本に来て初めて！)習った言葉があります。「**師走**」という言葉です。ある方が、「年末になると牧師も走る」と言ったら、「牧師は一年中忙しいんだ」と怒られたと話しておられました。一年中忙しいけれど私は特に、どうしてクリスマスが年末にあるのだ！と嘆くほど、クリスマスの喜びを味わわないまま準備でばたばたしていました。もちろん、メッセージの準備も。それを今年はやめました。もう忙しくなるのはやめる！と思ったら気持ちに余裕が出てくるものですね^^

今年は東日本大震災のことを通して多くのことを教えられた年でありました。震災直後、計画停電があり、この地域は夜の計画停電は一回だけでしたが、お月様がとてもきれいな夜でした。まだ英語学校を営んでいたときで、その日は最後の授業だったためにパーティを計画していました。他では電池やロウソクなど買えなくてたいへんなときに、教会には使い残った蝋燭がたくさんあり、電気のつかない部屋を蝋燭の灯りで灯すと、部屋は蝋燭のやわらかい光に包まれました。そして外は、月の明かりで包まれた、言葉ですべてを表しきれない、とても素敵な夜でした。

そのとき、はっと気づかされたことがあります。私たちは、電気の明るさのために本当の大切なものを見失っているのだと！

電気は、本当に便利だし、もうなくては困るものとなりましたが、そしていつも空気のように私たちの生活に密接していますが、その半面、本当の光がどれなのか分からなくさせるものでもあるということです。

電気がないときの昔の人たちは、月や星の光を頼りにして夜の道を歩いたことでしょう。夜やらなければならぬことは、きっと月が出る時期を計ってやっていたと思うのです。その昔の人たちは、月や星の灯かりのほかの灯かりを知らないから。しかし、月や星の灯かりは電気のような明るさはなく、そのすぐ近くに暗闇が潜んでいることを知らせる灯かりであります。人のすぐ近くに暗闇が存在するということを、忘れさせない…しかし、電気の明るさはとてもありがたいものではあります。特に都会にいますと、深い暗闇の存在を忘れさせてくれます。空気のように身近にいて楽な生活を約束してくれているようで、しかし、それは、創造主と被造物との関係を話していく役割をします。暗闇の中を歩くという不便さ、または恐れや怖さを知らないから、人は、自分自身を信じ、科学文明を信じ、それこそ生きる術であると信じて頼っていきます。実は、自分が被造物であることをも忘れさせられ、ですか

ら創造主を必要としない、神なき時代を作り上げて生きようになるのです。

人は、暗闇を体験してはじめて本当の光を知るのであります。

3月11日に日本を襲った東日本大震災は、日本全体を暗闇の中に落とし入れました。未だに津波による行方不明者がおり、避難所での生活や仮設住宅での生活、復興のためにまだまだ課題がたくさんあります。そして、原発による被害によって多くの人が一瞬のうちに故郷を失いました。日本で暮らすすべての人々の生活が脅かされ、いのちの危機にまで達しています。人間が作り上げたものによって人間が破滅に陥っているのです。暗闇とはまさにこういう状態を言うのではないのでしょうか。

日本の内外から多くの人たちの支援の手が東北へ差し伸べられました。たいへんな状況に置かれている東北の方々は、大きな犠牲を負いつつ、しかし、人と人との絆の大切さを、支援する側に教えてくれました。つまり、被災地に訪れたほとんどの人が、大切なことを学んできました！ここでは学ぶことのできない人と人とのつながりの大切さを学びました。また行きたいです！と言っていました。暗闇の中にいる人を助けるために行ったはずなのに、そこで、暗闇の中に輝いている光に出会ったのでしょうか。私はそう思いました。と惑う気持ちで、行っているかどうか迷うまま向かった

被災地で、しかし、むしろ力づけられた、思いもかけない不思議な出会い、短い時間に作られる絆、仲間！いのちの尊厳…つまり、それは、本当の暗闇を体験しなければ分からないこと。

ヨハネは、「光は暗闇の中で輝いている」と述べます。光の中に暗闇があると言うのではなく、暗闇の中に光があると言うのです。この暗闇とは、どこか遠い森の中にあるものではなく、私たちのすぐ近くに、一緒にあるものです。真の光とはその中で輝くのですから、その暗闇の存在を見失ってしまって、その中に輝く光をどうやって見つけ出すことができるでしょうか。

地震と津波によって、暗闇の中に置かれ、絶望の中でもがいておられる東北の方々は、最も大切なものを犠牲にしながら日本全国の私たちに、本当の光、本当のいのちがどういうものであるかを教えてくれたのだと、私はそう思っています。つまり、大きな痛みを負って誰かの分まで生きようとしている方々の中には、本当の光が輝いているということです。その光は、ヨハネが証しする真の光、闇の中で輝く主イエス・キリストにほかなりません。

私たちの暮らしは、電気が明るくついているから、月の明かりがない夜でも働くことができますし、歩くのにそれほど支障は感じません。ところが、私たちを働かせ、夜もどこへでもいけるように明るくしてくれる電気が人生の生きる道

まで照らしてくれたりはありません。むしろ、人の生きるべき道を見えなくしています。本当の光が輝く暗闇を、まるでないかのように隠しているのが、人間が作り上げた文明の明かりです。本当の暗闇を知らない人は、目に見えるものを生きる目的とします。目に見えるものこそが信じる対象になるのです。それは、本当の光を造られた方がおられることをも、ですから、真の光をも知らないまま、魂の渇きをこの世で満たそうと捜し、さ迷うことでしょう。しかし、魂の渇きを目に見えないところで満たそうとする人は、肉眼では見えない本当の光のある方向に向かって歩むようになります。



本日、5名の方が洗礼を受けます。

洗礼を受けるということは、大きな決断をなさったことと思います。つまり、この世が教えてくれる価値観をひっくり返して、聖書の価値観に生きることを決断することだからです。

この世の価値観は、この世で知識を増やして名誉を高めて成功し、たとえ人に多少の被害を与えても、いいえ、人類を破滅に至らせるようなものを作り上げたとしても、それが文明の発達に貢献したことになるならば、それを誇りとして生きることを教えます。この地上での繁栄、目に見えてそれらしきものこそが真の生き方であり、価値ある人生であると教えるのです。

しかし、神さまの教える価値観はその逆であります。死ぬことこそ生きることであると教えますし、この世での栄えが栄えではなく、目に見える強さが本当の強さではないと教えます。生きるということは、目に見えるいのちの長さにあるのではなく、目に見えない永遠のいのちの延長線上を生きること、生きるという本当の意味を捉えます。つまり、暗闇の中に輝いている光、イエス・キリストに従って生きることを本当の価値観と教えるのです。この教えに従うことを、皆さんは決心なさいました。そして、ここにおられる先輩方もこの教えのもとに決断をし、信仰の道を歩んでいます。先輩たちとともに、暗闇の中で輝く光に向けて、光の道を歩む、真のいのちを生きる道を生きてください。

イエスさまは、ヨハネ11：25で、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」とおっしゃっておられます。そして、8章12節では、「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」と言っておられます。この方が、今日、暗闇の中に輝く光に生きる道を委ねている皆さまを祝福し、本当の喜びで満たしてくださいますように。皆さまに与えられる日々が真の光に向かって歩む日々でありますように、お祈りいたします。



お祈りします。

私たちに真の光としてイエスさまを送り出してくださった神さま、私たちにこの方を私の救い主として告白することがゆるされていることを感謝いたします。一人ひとりが暗闇の力に道を失われ、大切なものを失い大きな悲しみの中に伏しているときも、いつまでも闇の中で悲しむことのないように、あなたは救い主を私たちに与えてくださいました。救い主が共におられるから、私たちは、どんなに辛い悲しみとも、苦しみとも、寂しさとも向かい合うことができるのです。

今日、洗礼を受けられる五人の方々を祝福し、救い主の歩まれる道をまっすぐに歩むことができますように。日々の生活の中に、どんなときもあなたが共におられる喜びを味わわせてください。

全世界で祝われているクリスマスが、この世に平和をもたらすことへとつながりますように。災害や貧しさ、病のゆえにクリスマスを祝えない人々にもクリスマスの喜びが届けられますように。

私たちのためにお生まれになりました救い主イエスさまのみ名によって祈ります。アーメン。

洗礼の思い

高橋由香

教会との出会い一二年ほど前より精神不安を訴え悩んでいました。そんな中、図書館で基督教の本を読み、教会への興味を持ちました。主人にインターネットで自宅近辺の教会を調べてもらい、大宮シオン・ルーテル教会のホームページを見たのがきっかけです。

それまでの四十三年間無縁の生活を送っていた私にとって、教会を訪れてからの生活は新鮮なものであり、又受洗準備クラスで学びはじめてからは聖書の難しさに読むのが精一杯の日々が続きました。それは一年経った今でも同じです。こんな自分が洗礼を受けても良いものか悩みましたが、この一年を振り返り心の支えとしてイエス・キリストを信じ、洗礼を受けて信者として生活をしようと決心しました。まだまだ学び不足ですが、聖書の「隣人を愛せよ」を心の糧にこれからの生活をイエス・キリストの御心に添って常に正しい道を歩んでいきたいと思います。

洗礼の恵み

逢坂敏秋

主の降誕祭に神様が洗礼を授けてくださいましたことに深く感謝します。

昨年の今頃は、洗礼を授かることはとても考えられないことでした。妻は奇跡だと言っております。

私と教会との出会いは 2009 年のクリスマスイブ礼拝でした。教会が近いこともあり、教会のクリスマスはどんなものなのかとの興味本位からの立ち寄りでした。おごそかな雰囲気の中でのキャンドルサービスと説教そして賛美歌斉唱は、心安らぐひと時であったことを覚えております。それでも当時は、基督教には興味がないと依怙地になり、日曜礼拝に足を運ぶには躊躇がありました。

そのような状況で背を押してくれたのは、昨年 2010 年晩秋の梁熙梅先生が主宰する韓国語教室（信徒を含む）中心の韓国済州島旅行でした。夫婦初の海外旅行でしたが、景観、食事はもちろんのこと素晴らしいメンバーにめぐり会えたことです。旅行は、日曜礼拝に足を運び躊躇を断ち切ってくれました。

そして年初からは、教会まで歩いて運動不足を解消との思いもあり、礼拝に出席することができるようになりました。聖書を読んでも理解できず戸惑うことが多かったなかで、それを救ってくれたのが受洗準備クラスでの聖書の勉強でした。一緒に洗礼を受けた 3 名に複数名の先輩を加えて、聖書と教理を 1 年間（31 回）学ばせて頂き

ました。丁寧に判り易く導いて下さいました梁先生には深く感謝しております。教わるにつれてみ言葉にどんどんひかれていきました。この間娘が病死しましたが、「主の愛と恵みそして憐れみ」のみ言葉を信ずるに揺らぎはありませんでした。幼少の頃教会学校に通い、何度か飯能教会でオルガニストの奉仕をさせていただいた亡き娘も、父親がクリスチャンになったことを天国で喜んでいると思います。

「暗闇の中で光を照らしてくれるキリスト」の教えの道を歩む新参者ですが、教会の皆さまどうぞよろしくお願いします。

洗礼をさすかり

高橋有紀

小学生の頃から学校で毎週礼拝があったためか、自然とキリスト教に触れていたと思います。高校生の頃には受洗に興味がありながらも、覚悟がなかったのか恐れがあったのか一歩先に踏み出せずにおりました。

そして3年前。娘と共に訪れた大宮教会。畏怖の念がとても強かったせいか、キリスト者として生きることを決めるのに2年もかかってしまいました。「私なんか」と高校生の頃にも思っていた気持ちがやはり大きかったのです。

大きな迷いの中始めた受洗準備クラス。なにより感謝したいのは、たっぷり1年間かけて準備できたこと。聖書1冊を学べた喜びとともに、この1年間毎日のように自分に問いかけることによって得られた覚悟。文字通り、私の人生においての一番大きな決心事になりました。自分に問いかける事により、自分とも向き合う事ができました。今思えば「私なんか」と思っていた当時、思ったより「私なんか」と思っていなかった事も分かりました。裸になるのが怖く、鎧を着ていただけだったのです。畏怖の念と言いながら、裸にされるのが怖かったただけなのです。それが分かった時、ある種の安心が私を満たしました。うまく表現できないのですが「これが私」と割り切ることができたのです。不思議な感覚でした。これでやっと入り口に立てたと思った私は、キリスト者として生きていくと決められました。とは言えまだ怖れと緊張はずっとあります。が、先日の説教にあった足跡のように、振り返ってみると共にいらしてくださった神。これからはいらしてくださる事を感じ、思いながらキリストと共に生きていける喜びを胸に過ごしていきたいと思っています。

今回、私と共にキリスト者になると決めた娘。まだ6歳ながら決めた彼女は、受洗時、嬉しさと緊張のあまり腰を抜かしてしまいました。そんな愛おしい娘と共に生きていける事を感謝し、キリストと共に生きていけるという喜びを伝えられる者になりたいと思っています。これより先、どうぞ宜しくお願い致します。

1月の教会のイベント & 梁のスケジュール

- 1日(日) 主の命名日礼拝 午後2時
- 8日(日) 顕現主日礼拝 礼拝後会員会
- 11日(水) 韓国語教室 聖書勉強会
- 12日(木) 韓国語教室
- 14日(土) 日本フェミニスト神学・宣教センター
- 15日(日) 主の洗礼日/テゼの祈り 礼拝後教会新年会
- 18日(水) 聖書勉強会(新しくスタート、午後1時半)
- 19日(木) 韓国語教室(11時) 祈禱会(午後7時)
- 22日(日) 顕現節第3主日礼拝
- 25日(水) 韓国語教室(午前11時～) 聖書勉強会(午後7時)
- 26日(木) 家庭集会(田嶋さん宅、午前10時半～)
- 29日(日) 顕現節第4主日礼拝/曽我部ふみさん説教
埼玉分区教職者会(飯能) 60周年委員会





大宮シオン・ルーテル教会

〒 331-0814 さいたま市北区東大成町 1-229

Tel/Fax 048-663-0215

URL : <http://omiya.church.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp